



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 — 「これからの自分のために」

新学期が始まって半年がたとうとしとる。長い期間、学校での行事やクラブ活動や部活動、習い事も自粛になって、ようやく再開されてもまだまだ大会やイベントは中止が多く、今まで懸命に取り組んできた子どもたちは何を目標にがんばればいいのか、今やっていることに意味があるのか、とやる気をなくしてしまつとるんじゃないかと心配しとる。

"何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く"。以前も紹介したこの言葉をもう一度子どもたちに贈りたい。今は畑を耕すとき、種をまくとき、根を伸ばすとき。明日すぐに芽が出なくても、花が咲かなくても、今やつとることは来年、再来年、5年、10年後につながって、結果になって表れる。今だけを見ずに先を見て、希望を持ってどうかこのつらい日々を乗り越えてほしい。

そして、どうか子どもたちの心がくじけないよう町の皆さんで支えてください。子どもたちの未来は町の未来です。子どもたちという"種"が元気に育つよう、皆さんで畑を耕し、水をやり、花が咲き実るよう、導いてください。何ができるのかまだ模索中ですが、私もできる限りのことをするつもりです。

子どもたち!今のためだけじゃなく、これからの自分ために、コツコツと日々を重ねるんよ!!

(テノヒラkiku)



本日！海日和!! vol.118

「右も左も分からない話」

台風のシーズンになった。災害が心配だが、台風は沖からきれいな海水を運んできたり、海の中をかき回して浄化したりするありがたい存在でもある。

日本に来る台風は左巻きの渦なのだが、オーストラリアなどで発生する台風(サイクロン)は右巻きになる。多くのものに右巻きと左巻きがあるが、海の中にはミギマキという魚と、ヒダリマキという魚がいる。どちらも斜めのしまがあり、ねじれているようにも見えるので、これらの名前が付いたようだ。しかし、写真のように頭を左にすると、どちらの魚も同じように左上から右下に向かってしまがあり、右巻きも左巻きもない。

これには、ヒダリマキという名前の魚が先にいて、後からよく似た魚にミギマキという名前



【ミギマキ】



【ヒダリマキ(タカノハダイ)】

を付けたという説がある。さらに最近になって、ミギマキにはミギマキ、ヒダリマキにはタカノハダイという標準和名が付いた。

今回の内容は、夏の迷走台風のように右へ行ったり左へ行ったりしてややこしい話になってしまった。結論は右巻きと左巻きの区別は難しいということである。

(撮影地：愛南町)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる